

定住自立圏構想

中心市宣言書



2015（平成 27）年 6 月 24 日

伊賀市

定住自立圏中心市宣言

現在、わが国は、少子化や高齢化による本格的な人口減少社会に突入しており、特に地方においては、急速な少子化・高齢化に加え、都市圏への人口流出による大幅な人口減少が深刻な問題となっており、それぞれの地方自治体は、地域の特性を活かしたまちづくりを進めていくことが求められています。

古くから「伊賀の国」として知られる伊賀地域は、三重県の北西部に位置し、北は滋賀県、西は京都府・奈良県に隣接し、東は鈴鹿山脈と布引山地、西は大和高原などに囲まれた盆地で、淀川の源流域として自然環境に恵まれたところです。

また、当地域は、俳聖松尾芭蕉や江戸川乱歩の生誕地、観阿弥創座の地、横光利一、荒木又右衛門などのゆかりの地であるとともに、伊賀流忍者のふるさととしても知られており、当地域内だけでなく、府県を越えた近隣自治体とも歴史的・文化的・経済的に深い結びつきがあり、生活圏を共有しています。

今後、伊賀市や近隣自治体は、先人から受け継いだ数多くの宝をそれぞれの地域の潜在力として活かしながら、行政区域という垣根を越えた広域的な取り組みを進める必要があります。このため住民をはじめとしたあらゆる主体と連携・協力することにより、圏域全体で医療、福祉、教育、交通といった住民の暮らしに必要な生活機能を確保し、都市への人口流出を食い止め、定住人口の確保という新たな人の流れを創出していかなければなりません。

本市は、近隣自治体とともにそれぞれの地域資源や特性を活かし、互いに連携し、住民が安心して暮らせる圏域づくりを進めていくため、中心的な役割を果たす「中心市」となることをここに宣言します。

2015（平成 27）年 6 月 24 日

伊賀市長

岡本 孝

1. 都市機能の集積状況及び利用状況

(1) 伊賀市における都市機能の集積状況

伊賀市は、近畿圏と中部圏の結節点に位置するという地理的な特性を持ち、住民の生活機能を確保し、圏域の振興を図るための医療機能、教育、観光、商業機能、公共施設等によるサービス機能など一定の集積があり、定住自立圏を形成する中心市としての都市機能が確保されています。

分野	都市機能	施設名称
医療	総合病院 (2次救急指定病院)	(公立) 伊賀市立上野総合市民病院 (私立) 岡波総合病院
	休日・夜間診療	伊賀市応急診療所
福祉	高齢者福祉施設	特別養護老人ホーム：15ヶ所、介護老人保健施設：4ヶ所、養護老人ホーム：3ヶ所、特定施設入居者生活介護：4ヶ所、老人憩いの家：1ヶ所、有料老人ホーム：1ヶ所、ケアハウス：1ヶ所
	障がい者施設	盲人ホーム、伊賀ホームほほえみ、阿山ホームかざぐるま、きらめき工房 ほか
	健康増進施設	ハイトピア伊賀保健センター、いがまち保健福祉センター、阿山保健福祉センター、青山保健センター ほか
	保育施設	公立：20ヶ所 私立：14ヶ所
教育 文化 スポーツ	高等学校	(県立) 上野高等学校、伊賀白鳳高等学校、あけぼの学園高等学校 (私立) 桜丘高等学校、愛農学園農業高等学校
	文化施設	伊賀市文化会館、ふるさと会館いが、阿山文化センター、青山ホール ほか
	スポーツ施設	三重県営ゆめドームうえの、上野運動公園、伊賀上野武道館、いがまちスポーツセンター、阿山運動公園、青山グラウンド、阿山B & G海洋センター、大山田B & G海洋センターほか

観光 娯楽	交流拠点施設（道の駅等）		道の駅いが、道の駅あやま、島ヶ原ふれあいの里、伊賀の国大山田温泉 ほか
	農業公園		伊賀市農業公園
	都市公園		上野公園、芭蕉の森公園、岩倉峡公園、しらさぎ運動公園、くれは水辺公園 ほか
	史跡・文化財等		上野城跡、伊賀国分寺跡、旧崇広堂、城之越遺跡、御墓山古墳、観菩提寺本堂、俳聖殿、上野天神祭のダンジリ行事 ほか
	資料館等		上野歴史民俗資料館、芭蕉翁記念館、伊賀越資料館 ほか
	観光施設等		上野城、忍者博物館、芭蕉翁生家、だんじり会館、伊賀焼伝統産業会館、青山高原 ほか
商業	大型商業施設		店舗面積 1,000 m ² 以上 12 店舗
	金融 機関	銀行・信用金庫・労働金庫等	27 箇所（出張所含む）
		郵便局	35 箇所（簡易郵便局含む）
		農業協働組合	33 箇所（本・支店）
交通	鉄道駅		J R 西日本 5 箇所、近畿日本鉄道 4 箇所、伊賀鉄道 14 箇所
	道路		（国道）名阪国道（25 号）、163 号、165 号、368 号、422 号
	バス（本市と周辺市町等を結ぶ路線）		路線バス 3 系統（上野名張線、上野山添線、月瀬線）、高速バス（高速伊賀品川線・伊賀大阪高速線、名古屋上野高速線）
行政機関	国関係		上野税務署、津地方法務局伊賀支局、伊賀労働基準監督署、伊賀公共職業安定所、津地方裁判所伊賀支部、津地方検察庁伊賀支部 ほか
	県関係		三重県伊賀庁舎（伊賀地域防災総合事務所ほか）
	警察・消防・防災関係		伊賀警察署、伊賀市消防本部、三重県伊賀広域防災拠点
	その他広域行政機関		伊賀市・名張市広域行政事務組合、伊賀南部環境衛生組合

（２）近隣自治体の住民による都市機能の利用状況

①医療機能

伊賀市では、圏域住民の安全・安心な暮らしを支えるために、一次救急医療と二次救急医療のすみわけを進めており、特に二次救急医療体制の確保に向け、実施病院等との連携強化に取り組むなど、地域医療の充実に努めています。

◆居住地別外来延患者数（2014（平成 26）年度）

	伊賀市	名張市	南山城村	山添村	その他	合計
上野総合市民病院	47,181 人	5,888 人	427 人	415 人	1,399 人	55,310 人
岡波総合病院	91,399 人	10,958 人	900 人	1,679 人	2,609 人	107,545 人

◆居住地別入院延患者数（2014（平成 26）年度）

	伊賀市	名張市	南山城村	山添村	その他	合計
上野総合市民病院	28,670 人	4,819 人	327 人	240 人	360 人	34,416 人
岡波総合病院	82,521 人	9,856 人	518 人	1,033 人	3,175 人	97,103 人

◆救急車搬送件数（2014（平成 26）年度）

	件数
上野総合市民病院	1,719 件
岡波総合病院	1,707 件

◆伊賀市応急診療所の居住地別患者数

患者数（割合）	伊賀市	名張市	南山城村	山添村	その他	合 計
2013（平成 25）年度	6,911 人	239 人	55 人	95 人	473 人	7,773 人
	88.91%	3.07%	0.71%	1.22%	6.09%	100.00%
2014（平成 26）年度	6,229 人	119 人	48 人	83 人	435 人	6,914 人
	90.09%	1.72%	0.69%	1.20%	6.30%	100.00%

②教育機能

伊賀市には、県立高等学校が 3 校、私立高等学校が 2 校あり、県外を含む近隣自治体から、多数の学生が通学しています。

また知の拠点としての伊賀市内図書館（分館含む）にも、県外を含む近隣自治体からの利用者が多数います。

◆市内県立高等学校の居住地別生徒数

校名	伊賀市	名張市	その他県内	県外	合計
上野高等学校	610 人	248 人	20 人	20 人	898 人
伊賀白鳳高等学校	649 人	107 人	49 人	20 人	825 人
あけぼの学園高等学校	140 人	67 人	23 人	0 人	230 人
合 計	1,399 人	422 人	92 人	40 人	1,953 人

◆市立図書館 図書利用カード登録者数（2013（平成 25）年度）

伊賀市	名張市	南山城村	山添村	その他	合計
31,886 人	849 人	184 人	175 人	309 人	33,403 人

③商工業機能

商業機能としては、中心市街地には商店街が軒を並べ、市内各所には、大手スーパーや家電量販店などの郊外型商業施設や、ファミリーレストランなどの店舗が立地しており、圏域内の住民の暮らしを支えています。

工業機能としては、近畿圏と中部圏の結節点という本市の特性から、ゆめぼりす伊賀クリエイトランドや名阪国道沿線に工場が多数立地しており、本市や近隣自治体の雇用促進に繋がっています。

◆商業の概要

	商店数（カ所）	従業者数（人）	年間商品販売額（万円）
卸売業	204	1,484	85,014,000
小売業	969	5,885	105,741,000

2007（平成 19）年度商業統計調査

◆工業の概要

事業所数（カ所）	従業員数（人）	製造品出荷額等（万円）
306	16,742	69,519,527

2013（平成 25）年度工業統計調査

④交通

伊賀市は、中央部に近畿圏・中部圏を結ぶ名阪国道が貫通し、圏域内を南北に結ぶ国道 368 号線・422 号線、東西に結ぶ国道 163 号線・165 号線が整備されています。

鉄道網においては、市内の北部に J R 関西本線、J R 草津線、南部に近鉄大阪線が通っており、それらを結ぶ伊賀鉄道が、圏域内ネットワークに大きく寄与しています。またバス路線は、圏域内を結ぶ上野名張線、上野山添線、月瀬線や、東京・大阪・名古屋との高速バスが運行されています。これらの公共交通機関は圏域内での公共交通の中心的役割を担っています。

◆市内主要駅の利用者数（2013（平成 25）年度）

利用者数	近鉄伊賀神戸駅	伊賀鉄道伊賀神戸駅	伊賀鉄道茅町駅	伊賀鉄道上野市駅	伊賀鉄道伊賀上野駅	J R 伊賀上野駅	J R 柘植駅
普通	251,851 人	148,843 人	39,831 人	92,719 人	43,182 人	79,000 人	46,000 人
定期	271,500 人	510,990 人	141,840 人	315,720 人	92,370 人	181,000 人	91,000 人
1 日平均	1,434 人	1,808 人	498 人	1,119 人	371 人	711 人	376 人

資料：西日本旅客鉄道（株）、近畿日本鉄道（株）、伊賀鉄道（株）

2. 近隣自治体との連携が想定される取組

近隣自治体と連携する項目として、下記のような分野を想定しています。ただし、連携する分野は、自治体ごとに異なる場合があります。

（1）生活機能の強化のための取組

①医療

- ・救急医療をはじめとする地域医療ネットワークの強化

②福祉

- ・子育て環境、高齢者や障がい者へのサービスを充実させるための連携強化

③教育

- ・教育、文化、スポーツ施設の相互利用や広域的活用の推進
- ・生涯学習やスポーツ活動の振興

④産業振興

- ・企業立地の促進及び支援
- ・圏域内の観光資源を活かした広域観光の推進

- ・農林業の振興

⑤環境

- ・自然環境の保全、活用のための連携強化
- ・下水道施設やゴミ処理施設の広域連携の強化

⑥防災

- ・災害時の応援体制など地域防災力・消防力の充実・強化

⑦その他

- ・上記のほか、圏域内の生活機能の強化に関する取組

(2) 結びつきやネットワークの強化のための取組

①公共交通

- ・地域の公共交通の利便性向上のための連携強化

②I C Tの活用

- ・I C Tを活用した情報発信の強化

③交通インフラの整備

- ・圏域を結ぶ基幹道路及び生活道路整備の強化

④地産地消

- ・圏域内の農林水産物や特産品のP R、販路拡大の推進

⑤地域内外の住民との交流

- ・圏域の魅力を活かした観光戦略や各種イベントの連携強化

⑥その他

- ・上記のほか、結びつきやネットワークの強化に関する取組

(3) 圏域マネジメント能力の強化のための取組

①人材育成・交流

- ・圏域内職員の能力向上や人材育成のための合同研修、人事交流の推進

②外部からの人材確保

- ・圏域の課題解決に向けた専門的知識を有する外部人材の招聘

③その他

- ・上記のほか、圏域マネジメント能力の強化に関する取組

3. 伊賀市への通勤通学状況

伊賀市へは、近隣自治体から多数の住民が通勤・通学しており、本圏域における産業、教育の中心的役割を果たしています。

なお、伊賀市への通勤通学割合が 0.1 以上の自治体は、次のとおりです。

◆伊賀市への近隣自治体の通勤通学状況

	通勤通学割合 〔A／B〕	本市に対して通勤通学する就 業業者及び通学者数〔A〕（人）	当該市村に常住する就業者及 び通学者数〔B〕（人）
名張市	0.198	7,826	39,442
南山城村	0.245	325	1,324
山添村	0.205	352	1,718

※2010（平成 22）年国勢調査

4. 伊賀市及び近隣自治体の人口の状況

伊賀市及び近隣自治体の人口状況は、経済の発展や宅地開発等に伴い、2000（平成 12）年頃までは増加傾向にありましたが、近年の景気低迷と少子高齢化等により、2005（平成 17）年以降は減少傾向にあり、今後も人口減少がさらに進むことが想定されます。

◆伊賀市及び近隣自治体（伊賀市への通勤通学割合が 0.1 以上）の人口の推移（人）

	S 55	S 60	H 2	H 7	H 12	H 17	H 22
伊賀市	95,582	96,846	97,752	101,435	101,527	100,623	97,207
名張市	44,488	56,474	68,933	79,913	83,291	82,156	80,284
南山城村	3,396	3,701	3,890	4,024	3,784	3,466	3,078
山添村	5,822	5,933	5,773	5,420	4,967	4,595	4,107
計	149,288	162,954	176,348	190,792	193,569	190,840	184,676
増加率	—	9.15	8.22	8.19	1.46	-1.41	-3.23

※国勢調査